

「旅行業部門の今後の方向性」に関する 申17号 解明申し入れ(その1)交渉を行う①

交渉冒頭の確認事項

旅行業部門における提案であること(実施内容の3点以外にはないこと)

1. JR東日本発足以降の旅行業部門の成果と課題を明らかにすること。

成果は東日本エリアの観光流動創造である。
会社にとって旅行業は観光流動を創るために重要な業界。
今後も観光流動を創ることは変わらない。
店舗はV T Sに移管することは以前から行っている。
着地仕入業務等の本体で行う旅行業は今後も変わらない。

2. 「環境の変化」により、度重なる施策を担ってきた旅行業部門で働く組合員に対する評価を明らかにすること。

社員の努力等により、東日本エリアの観光流動創造に成果をあげてくることができた。
労いが無いという指摘もあるが、旅行業の社員と向き合ってきた。しかし、全部届いているかと言えば出来ていないこともある。社員の努力を認識し、しっかりと向きあっていく。
声を聞く場をつくるように努力していく。
努力をしてきた社員の本人希望はなるべく早い段階で把握をおこなっていく。

5年間で4度も転勤があい生活設計に不安がある！ 観光流動をつくるために働いてきたが労いの姿勢がない！ 収入や送客目標を達成するために取り組んできた！

3. びゅうプラザは、VTSへの移管後においても、販売促進・情報発信拠点の機能を担うとともに、対面販売の強みであるコンサルティングにより東日本エリアの観光流動を創る役割を担うこととしてきた成果と課題を明らかにすること。

びゅうプラザの役割は、販売促進・情報発信拠点の機能を担うとともに、対面販売の強みであるコンサルティングにより東日本エリアの観光流動を創ること。
今までも期待する役割を果たしてきている。現状はそれを上回る環境の変化がある。

4. 訪日外国人向け店舗、ハイクオリティ型店舗、ワンストップ型店舗への店舗展開の現状および、成果と課題を明らかにすること。

訪日外国人型：拡大している。ニーズに沿った形である。
ワンストップ型：二戸ではあったが、想定を超える環境の変化によって、現在はない。
ハイクオリティ型：店舗の設置には至らなかった。
読み間違えて誤った選択をしたわけではない。旅行業全体の動きが速い。

5年もたたずして会社の考えがここまで変わるのか！ 環境の激変は踏まえるが実のならない結果になっている！ 社員から納得感が得られない！不安である！ その2へ続く